

令和4年度 GIGA スクール構想の推進について

1 GIGA スクール構想の実現に向けて

(1) GIGA スクール構想とは

児童生徒に1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもたちを含めて、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現することを目的としている。

(2) 野田市独自の ICT 推進プロジェクト NICT (ニクティ) について

Noda Information and Communication Technology の頭文字をとったものである。野田市教育委員会と各学校の ICT を牽引する教職員が連携をし、教職員、児童生徒の ICT 活用能力を向上させていくプロジェクトになる。今年度の活動は以下のとおりである。

- ①端末に「ふれる」から「つかう」にフェーズを上げ、児童生徒の活用をさらに促進する。
- ②各種研修会の充実や野田市教育研究会、校長会、Google と連携し、ICT 活用状況の二極化の改善に取り組む。
- ③各ブロック（中央、西部、南部、北部）において、3名のブロックリーダーを置き、各地区の活用推進の働きかけを行う。

2 令和3年度から現在までの取組について

(1) 環境整備事業概要

- ①学習者用1人1台端末 Chromebook 整備完了 (R3.8)
→クラウド型学習パッケージ「Google Workspace for Education」を利用するためのアカウント (〇〇〇〇@noda.ed.jp) を児童生徒および教職員に対して付与。
- ②デジタル学習ドリル「eライブラリ」
→小学校1年生～中学校3年生の5教科（国語・社会・算数数学・理科・英語）の教材を在籍学年問わず自由に学習可能。家庭のパソコン等からも利用ができ、復習はもちろん、予習としても活用できる。
- ③遠隔学習用 Web カメラ・三脚・マイク
→オンライン授業等で利用できる機器を各学校2セット整備。
- ④教職員用 PC 移設
小学校の PC 室で使用していた端末を教職員用に設定し、全小中学校へ設置。
- ⑤令和4年度学級増に対応した無線アクセスポイント（インターネット環境）の増設・充電保管庫増設移設

⑥中・大規模校向けの通信状況改善

→市内1校でNTT・日興通信による調査を実施した上で、今後の児童生徒数推移を考慮して設定変更作業を実施。

⑦職員室の無線アクセスポイント（インターネット環境）増設

→全小・中学校職員室で学習系ネットワークが利用可能。

（2）ICTの活用促進に向けた取組

①NICTプロジェクトの推進

→地区ブロックリーダー増員、各校ICTリーダー選任、各学校の取り組みを共有できるオンライン定例会の実施。ブロックリーダーと指導課担当およびGoogle社との連絡体制を強化し、学校現場との意思疎通を円滑化。

②Google社との連携

→自治体パートナープログラム参画により、Google社から本市の実態に合わせた支援を受けることが可能になった。また、Google社とシステム活用状況の確認をしたり、各種活用資料の提供を受けたりする等、活用推進のための月例オンライン会議を実施。

③Google社の協力によるChromebook研修

④デジタル学習ドリル「eライブラリ」活用推進

→活用推進校を指定し、「推進校教職員向け活用研修会」「推進校生徒向け活用ガイダンス（中学校のみ）」の実施や推進校の事例を紹介する「eライブラリ通信」の作成。また、指導課・提供業者との定例会を通し、各校の活用状況を確認。

⑤NODA GIGA WEEK

→野田教育の日前後1週間を1人1台端末活用週間とし、市全体でICT活用に向けて取り組む。

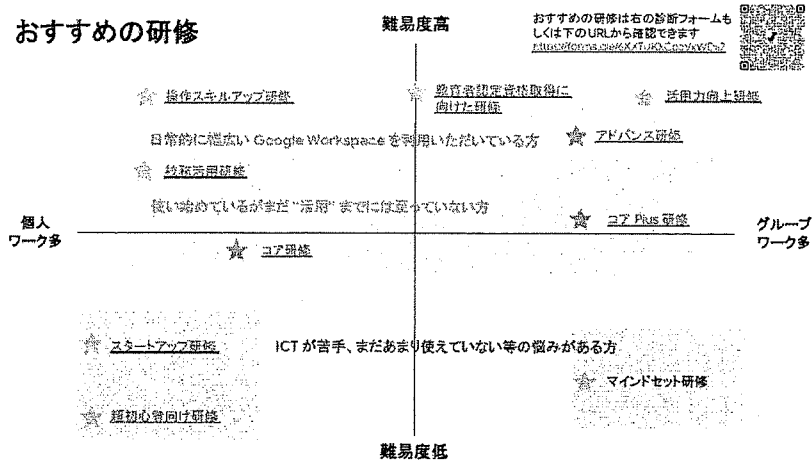
⑥ICT活用状況調査

→全教職員・全児童生徒を対象に年2回（6月、12月）ICT活用状況調査を実施して課題を洗い出し、さらなるICT活用推進に努める。

3 課題について

(1) 学校取組差や教職員差による ICT 活用状況の二極化を改善させる

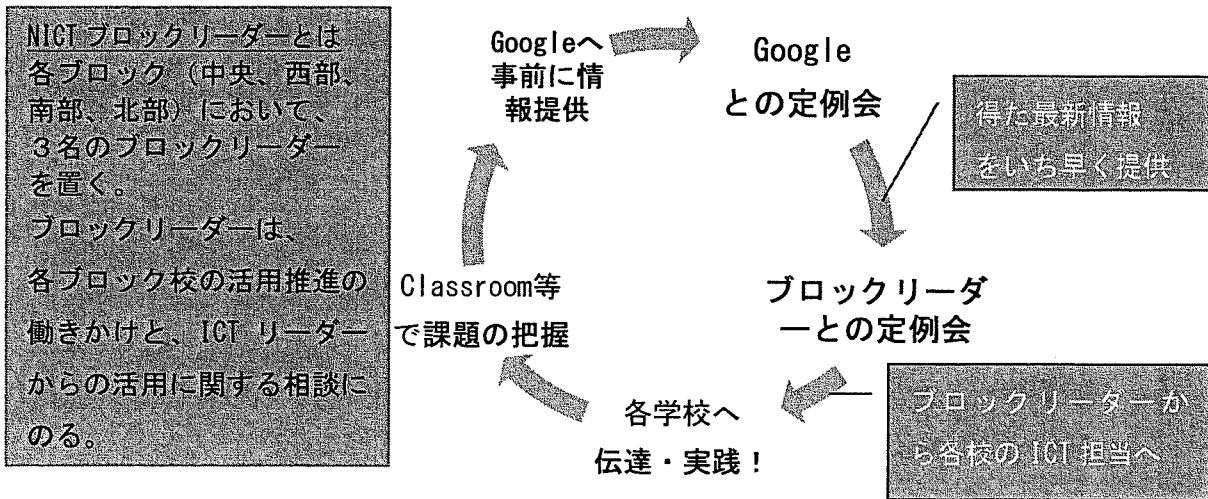
- 管理職向けに意識改革のための研修を実施
- 一般職員向けに研修を野田市用にカスタマイズ



- Google と野田市教育研究会の連携
- 教職員や各学校の実態を把握し、随時、指導・調整

(2) 児童生徒の活用をさらに促進させる

□野田市独自のボトムアップ的な ICT 推進事業、NICT プロジェクトの推進

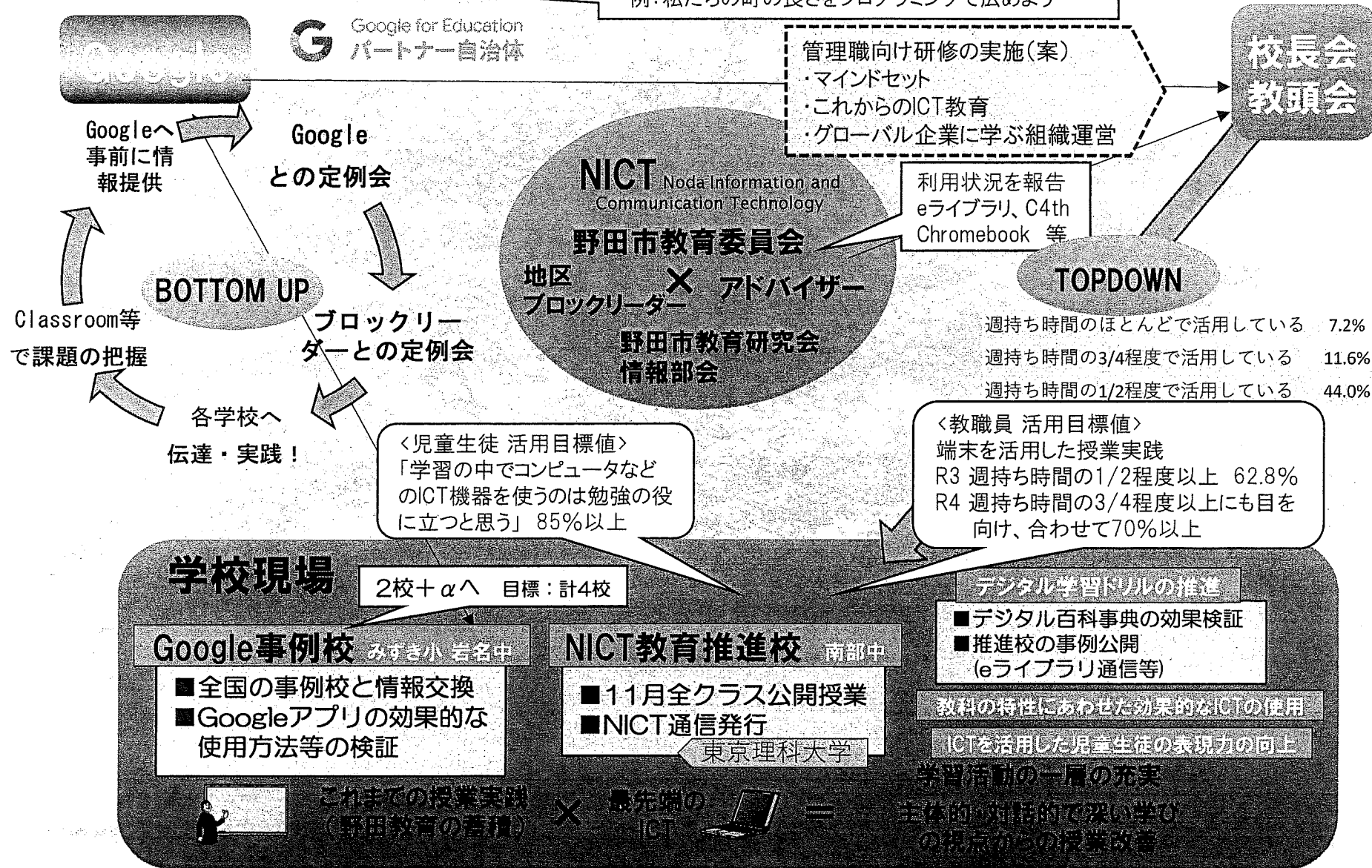


- NODA GIGA ホームページの活用
- Google 社提供、ICT 活用に役立つコンテンツの紹介、教職員の ICT を効果的に活用した授業実践例の共有等を掲載予定。

自己の学びをもとに、他者と協働して、よりよい未来を切り拓く児童生徒の育成

～人の強みを伸ばすICT活用を目指して～

- ・コミュニケーションツールの正しい使い方
- ・児童生徒のプレゼンテーション能力(表現力)の向上
例: 私たちの町の良さをプログラミングで広めよう



週持ち時間のほとんどで活用している	7.2%
週持ち時間の3/4程度で活用している	11.6%
週持ち時間の1/2程度で活用している	44.0%